

件名	令和元年度第1回長泉町地域公共交通会議
日時	令和元年5月22日(水) 午後1時30分～午後2時50分
場所	長泉町役場西館 4階大会議室
出席者	出席委員：13人 欠席委員：1人 オブザーバー等：3人 事務局：4人
<p>I 議事</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 新委員紹介 4 副会長の選任 5 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和元年度のスケジュール (2) ももタクの運行状況およびダイヤ改正 (3) 竹原・本宿地区におけるデマンド型交通の検討 6 報告 <p>長泉・清水循環バスの運行状況</p> 7 その他 <p>静岡県のパス事業の現状について</p> 8 閉会 <p>II 議事概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 (13:30) 2 会長挨拶 (13:30～13:33) <p>高齢者による痛ましい交通事故が連日報道されており、そういった報道の度に公共交通のあり方や充実が求められている。住民意識調査では、町政において公共交通の充実が最も満足度が低いことから、今後、町としても重点的に取り組む必要があると認識している。</p> <p>本日は、昨年10月から実証運行を開始したももタクの現状報告やダイヤ改正および新たに竹原・本宿地区に導入を検討しているデマンド交通について協議いただく。これらも含めた町内全域の公共交通は過渡期を迎えており、町としても試行錯誤している段階にあるため、忌憚のないご意見をいただきたい。</p> 3 新委員紹介 (13:33～13:40) <p>出席委員及び事務局が自己紹介を実施。</p> 4 副会長の選任 (13:40～13:42) 	

長泉町区長連絡協議会委員を副会長に選出。

5 議題 (13 : 42～14 : 25)

(1) 令和元年度のスケジュール

<事務局>資料1に基づき説明

今年度の全体スケジュールについて、長泉町地域公共交通会議を3回開催する予定であり、5月は本日、8月は9日、12月は20日を予定している。

個別案件のスケジュールは、各会議に連動しながら進める。

ももタクについては昨年度から地元区と開催した検討会で把握をした課題・要望を踏まえたダイヤ改正に向けた意見を聴取し、6～7月にダイヤ改正に向けた地元区協議を行い、ダイヤ改正案を作成する。その案を8月開催予定の第2回会議において審議いただき、承認を得られた場合は9月からのダイヤ改正を予定している。その後は令和2年4月からの本運行に向けた調整及び許認可手続きを進めていく。

竹原・本宿地区のデマンドについては、本日提示する運行計画素案について協議いただき、関係各所との調整を経て第2回の会議において審議いただき、承認を得られた場合は10月からの実証実験開始を予定している。

公共交通施策の検討については、コミュニティバスの再編に向けた公共交通の目標・基本方針の検討と、コミュニティバスの再編案、導入計画の検討を行い、令和3年度からの運行開始に向けて進めていく。

<質疑>

なし

(2) ももタクの運行状況およびダイヤ改正

<事務局>資料2に基づき説明

昨年10月の運行開始から一定期間が経過したことから、地元自治会との利用促進検討会を2回開催し、意見の把握に努めた。登録者数が5月15日現在で656人、対象人口の約27%となっている。関係区の役員会や子供会の総会などに出張し、周知活動や申請の受付を行ったことで順調に増加している。昨年10月から本年4月までの運行実績だが、1日あたりの平均運行台数は3.8台、1日あたり平均輸送人数は4.6人となっており、乗合率は1.24、収支率は23.4%となっている。便別輸送実績について、行きは8:40～11:10の便の利用が多く、帰りは11:30と12:30、16:30の利用が多くみられる。行き・帰り共に夜の便の利用はほとんどなかった。駐車場別利用実績は、行き先3か所の中では長泉なめり駅が最も利用が多く、次いでウエルディ長泉となっている。乗り場では屋代住宅の利用が最も多くなっている。本格運行に向けての作業は、本日の協議で意見を伺い、昨年度から地元区と実施してきた検討会で把握をした課題・要望を踏まえたダイヤ改正案を作成する。その案を8月開催予定の第2回会議において審議いただき、承認を得られた場合は9月からのダイヤ改正を予定している。その後は、乗合率や収支率のある程度の基準を定めるなど、来年4月からの本運行を目指して協議・手続きを進めていく。

<質疑>

[委員]

乗合率1.1以上、収支率20%とあるが、これは今までの実績から算出したのか。また、この目標値を維持するためのダイヤ改正をシミュレーションできるのか。

[事務局]

乗合率は静岡県における補助金の交付要件が1.1以上であること、収支率は導入検討の際にバスの廃止代替であることからバス運賃並の料金を設定したところ約2割であったことから、乗合率は1.1以上、収支率20%としている。ダイヤ改正にあたっては、便別の乗合率を把握しているので、そこからある程度のシミュレーションが可能。

[委員]

停車場別の利用実績を見ると、利用が全くされていない停車場がある。これに対して、利用促進あるいは廃止といった何か対応は考えているか。

[事務局]

当該停車場については、導入検討時に御長屋線の停車場を基盤として定時性に影響がない範囲で関係区の方々と協議をして設定をしており、利用のない停車場のあることによって運行状況に悪影響がないこと、また、関係区が何かなくなることにに対して敏感なこともあり現状特段の検討は行っていないが、再度利用状況を見つつ利用促進等の検討をすることも必要だと考えている。

[委員]

既存の登録者のうち65歳以上はどの程度いるか。

[事務局]

656人中344人が65歳以上となっている。

[委員]

停車場別の登録者数は。

[事務局]

確認をする。

[委員]

65歳以上の高齢者のさらなる登録促進をすることを検討しても良いのでは。

[事務局]

検討する。

[会長]

鈴木委員にあっては導入検討から稼働後も関係区との協議に携わっているが感じることはあるか。

[委員]

他市町の運行状況と比較すると順調ではないかと感じている。しかしながら、今後を見据えたダイヤの統廃合等を検討する際は、慎重に協議を行わなければ関係区の方々が路線がなくなるなどの不安を抱いてしまうおそれがある。

(3) 竹原・本宿地区におけるデマンド型交通の検討

<事務局>資料3に基づき説明

昨年度は公共交通に対するニーズを把握するためアンケートを実施した。その後、地元自治会やシニアクラブへのヒアリングを実施し、住民の生の声を伺いながら新たに導入検討する公共交通をデマンド型乗合タクシーとし、実証実験の素案を作成した。

計画案について説明する。目的は、移動手段に乏しい高齢者の日常的な生活の為に必要な最低限の移動を支援すること。

対象者は、竹原区・本宿区に住民登録された75歳以上の方と65歳以上で運転免許、自家用車を有していない方とする。

運行主体は、県タクシー協会沼津・三島支部様に業務受託可能なタクシー事業者を選定してもらう予定である。

運行方法は自由経路ドアツードア型で、時刻表に基づき小型タクシーで自宅と特定施設を結ぶ方式。予約がない便は運行しない。実証実験期間中は、道路運送法第21条に基づく運行を予定している。

運行先は、役場周辺を北限とした公共施設と、区域内のスーパー、病院とし、具体的な特定施設は表のとおりとなっており、2枚目に綴っている地図に具体的な場所を示してある。

なお、乗り継ぎとして伊豆箱根バスのバス停3か所と長泉・清水循環バスのバス停1箇所を設定し、沼津駅、三島駅など東西の移動は伊豆箱根バス、清水町方面への移動は長泉清水循環バスを利用する形としている。

運行日は、月曜日から金曜日の平日で、土・休日は運休とする。実証実験期間は、令和元年10月から令和3年3月の1年半を予定。運行時間と便数は、行き・帰り共に6便で、時間は記載のとおりである。運賃は1乗車300円を予定している。

以上が事務局案だが、実際の運行を担うタクシー事業者との協議で詳細を確認していきたいと思っている。

今後の予定は、本日の会議において意見を伺い、その後、運行案を見直し、再度関係各所と最終調整し、8月の会議で最終運行案を審議いただき、承認をいただいた場合は10月からの実証実験開始を想定している。

<質疑>

[委員]

土休日は運行しないとなっているが、なぜか。

[事務局]

タクシー事業者の運転手確保の関係や、全国的にデマンド型交通は平日運行が多いことから同様の条件を予定しているが、実証実験を実施する中での要望やタクシー事業者との協議を行いながら検討していく。

[会長]

地元に入って意見を伺いながら原案を作成した。そのあたりについては区長でもある副会長

はどのように感じたか。

[委員]

役員会、班長会、シニアクラブと協議をしてもらった。その中で出た意見としては、東西の移動は既存バスで可能だが、北に行く移動が不便であるということを伝えた。

[委員]

ももタクとの違いがよく分からないが、今回は自宅から特定施設ということで、乗合率は1.0にならないのか？

[事務局]

乗合なので、予約があれば同じ便に複数が乗車することはある。

[委員]

特定施設からの帰りもこの時間帯で予約するということか？

[事務局]

その通り。予約の件数やルートによって時間が変わるので、時刻表の時刻は目安である。その件については事前に周知する。

[委員]

同じような形態のデマンド交通を行っている市町はあるか。

[事務局]

県内だと牧之原市や富士市で同形態の導入事例がある。

[委員]

1点目、ももタクで行った利用促進検討会は竹原・本宿でも実施する予定があるか。2点目、ももタクで設定している目標（乗合率、収支率）を同じように設定する予定はあるか。

[事務局]

1点目については、現在はまだ行政側から地元アプローチしている状況であり、今後運行に向けた地元との協議の中で、行政、地元、事業者の3者で利用を促進するための意見交換の場を用意したいと考えている。2点目については、同様の数値設定を考えているが、運行状況を見ながらタイミングを見て具体数値を掲げたいと考えている。

[委員]

対象者が記載してあるが、ももタクと同じように事前会員登録をする予定か。

[事務局]

記載が抜けているが、事前の会員登録を行う予定である。

[委員]

ももタクの説明では高齢者が予約に不安があるということであったが、他市町の事例では本人ではなく家族が登録に来て、本人が乗り方を理解しないままになってしまっている事例があった。乗り方教室のように、利用する本人に届くような方法で利用方法を周知してもらいたい。

[会長]

伊豆箱根バス(株)は、今回の計画についてどのようにお考えになるか。

[委員]

バス運行に限って考えると、今回のデマンドによって弊社の運行に影響があるとは思っていない。別の話になるが、乗合率や収支率などは民間企業として考えると数値を満足しなければ撤退することもありえることなので、町としてもこの公共交通を導入する以上、数値目標があるということを明確に地元伝える必要があると思う。

[委員]

本日協議をしてもらったので、早急に事業者選定を行いたい。当支部管内では初めての形態のデマンドであるため、バスの活性化などの可能性もあると考えている。住民、行政と積極的に取り組んでいきたい。

6 報告 (14:25~14:34)

長泉・清水循環バスの運行状況

<事務局>資料4に基づき説明

「長泉・清水循環バス」は、平成15年に長泉町と清水町で協議会を設置して運行を開始した。平成18年からは清水町から撤退の申し出があり、それまで東回り、西回りの2系統あったものを1系統にリニューアルして長泉町単独で運行を継続している。

運行は、伊豆箱根バス㈱に1~3便、㈱東海バスオレンジシャトルに4~6便の運行を委託している。

長泉なめり駅を起点に公共施設、医療施設、ショッピングセンター等を経由し清水町の静岡医療センターまでを循環する、総延長22kmの路線となっている。

今年度から平日が7便から6便になり、平日・土曜日が6便、日曜・祝日が5便で365日運行しているが、1便あたりの乗車率は増加しており、より効率的な運行となっている。

運賃は100円で、運行委託費が2社合計11,432,181円となっており、燃料費および人件費の高騰等を考慮して597,621円増額している。また、運賃収入は事業者の収入としている。年間の利用実績だが、平成30年度実績で40,069人であり、第7便を減便したこともあり、前年比4,655人の減となっている。

平成25年度をピークに減少傾向にあるため、更なる利用促進に向けた取り組みが必要であると思われる。

<質疑>

[会長]

ダイヤ改正をして昨年1年間運行した中で、状況や気づいた点などがあればお願いしたい。

[委員]

運行自体はある程度スムーズになった。特に問題は上がってきていないが、消費増税に伴う対応については相談したい。

[委員]

以前は遅延があったが、ダイヤ改正によって現在は支障なく運行している。

[委員]

7便から6便に減らす時に、利用者があまりいないから影響がないという話であったが明らかに影響がある。このあたりはどのように分析するか。

[事務局]

便別の利用者を見ると旧7便の利用者が年間1,200人ほどいたが、昨年度の実績を見ると6便が2,000人ほど減っており、原因としてはダイヤ改正の際に遅延や便間の休憩を考慮して時間を確保したことにより、旧6便と1時間ほど時間がずれたことで今まで乗っていた方が離れてしまったと推察される。今後の再編検討の中で、長い路線を南北に切ったりすることで1時間に1本程度の便数を確保する等の検討をしていく必要があると考えている。

[委員]

病院に行く方が、帰りの便の時間がもう少し早い時間だと良いというような声を聞く。

[事務局]

乗降調査を行ってみると、医療センターなどで降りる方たちが帰りは利用していない状況も確認できた。行きは循環バスで行き、帰りはタクシーなどの他の公共交通を利用しているようである。1便が長いことで2時間に1本しかないということでちょうどいい時間がないということであると思うので、再編の中で検討していきたい。

[会長]

公共交通の再編の中では増便や分割を行っていきたいと考えてはいるが、今年度は現状の運行を行っていくため、利用者の意見があった場合は事務局にお知らせ願いたい。

7 その他 (14:34~14:50)

静岡県のバス事業の現状について (静岡県交通基盤部地域交通課 鷲坂主査) 資料5

<質疑>

[委員]

資料の16、17ページにある「分かりやすい乗り場環境」は、行政が整備するのか。

[委員]

行政、事業者が負担金を出し合って整備している。行政単独ではない。

[委員]

土日に桃沢に向かうバス要望があるが、やむを得ずタクシーを利用してもらっている。

[委員]

現状3便体制だが、産業振興課と話をしてイベント時などは臨時便を出したりしている。

[委員]

将来的な視点に立った際に話をする場はここしかないと思われるので、すぐにとは言わないが検討をお願いしたい。

8 閉会 (14:50)

